

社会参加先進国へ

サービスグラント 年次報告書 2018-2019

[2018年4月1日 – 2019年3月31日]



VISION

社会参加先進国へ

MISSION

プロボノを進化させる



- 市民が、自分自身の可能性を最大限に生かして社会参加している
- 企業が、社会課題解決と、自社のメリットとを両立させる方法を見出している
- 行政が、市民の知恵を取り入れ、持続的に改善できる仕組みを備えている
- 誰もが、人の役に立つ喜びを感じられる機会が、すぐそこにある
- 世界中の課題解決手法を取り入れ、常に世界のより良い方法を探し求め続けている

それが、私たちが考える、私たちが目指す、社会参加先進国です。

2005年、サービスグラントは、日本における「プロボノ」のフロンティアとして、産声を上げました。それから月日が経過し、プロボノは、ビジネスパーソン社会貢献手法として、着実に浸透しつつあります。

サービスグラントが、この十年余をかけて培ってきたもの。それは単に、プロボノプロジェクトの運営という狭い範囲の個別手法に留まるものではありません。

立場の異なる複数の主体が、共通の目的のもとに協働し、前向きな成果を生み出すに至るまでに、何が求められるのか。どのような知識が求められ、どのような人が力を発揮し、どのような体制を組むことがより確実性を高められ、どのような手順で進めることが効率性を実現でき、どのようなコミュニケーションのスタイルが求められるのか。

この普遍的な問いの答えに、私たちの知見は、つながっていくはずです。

サッカーをする人が、ボールがあればだれもが一緒になってプレーを楽しめるように。
音楽を愛する人が、国を超えてアーティストにまつわるエピソードを語り合えるように。

社会課題の解決においても、基本的な考え方や行動様式が社会全体で共有され、そこに集まる人たちが、立場の違いを尊重しながら、当たり前のように協働できる社会。サービスグラントは、日本を、世界を、社会参加先進国にすることを目指して、挑戦を続けます。

代表メッセージ

ここ1年、プロボノワーカーの登録者数の伸びが一気に加速しました。あと一歩で年間1,000人に届くかという勢いの背景には、「人生100年時代」「ライフシフト」といった言葉がひろがり、いま身を置いている組織の外に出て何か具体的なアクションをしておきたい、という機運が高まっていることが関係しているのかもしれませんが。

そして、ここ1年、プロボノプロジェクトの実施件数もいちだんと増えました。昨年度の133件に対して、今年度はさらに27件多い160プロジェクトを運営し、過去最高を更新しています。

このように、サービスグラントは、年々、より多くの人に参加し、より多くのNPO・地域団体を支援できるプラットフォームとして、バージョンアップを重ねています。

ただ、そのように一見順調ななかでも、私はどちらかというところ、機会損失のようなものを感じてしまうのです。

社会参加に向けた関心が大きくなうねりとなって立ち現れているこの時代において、むしろ、参加者や支援先が現状の規模感にとどまっていたよいのだろうか、と。もちろん、規模だけがすべてではないとは思いますが、質が伴わなければ、かえって迷惑かもしれません。それでも、敢えて挑戦するとしたら、プロジェクトの件数をもうひと桁増やすこと、ではないかと思うのです。しかも、できる限り、一定の質は保ちつつ。

そんな思いの中で、いまサービスグラントで取り組んでいることのひとつが、社会参加プラットフォーム「GRANT」という、新しいシステムの開発です。

サービスグラントがプロボノプロジェクトの運営で培ってきた手法を活かしながら、いま社会の中に満ちてきている「参加」のエネルギーを、新しい力に変えていくための提案として、暗中模索しながら、開発や改良を進めています。

気が付けば、いよいよ2020年代に入ります。「GRANT」をはじめとして、従来のプロボノプロジェクトのモデルにとらわれない新しい仕組みを具現化し、「社会参加先進国へ」という、サービスグラントが掲げるビジョンに向けた取り組みを、いよいよ加速させていきたいと思えます。

2019年 9月

認定NPO法人 サービスグラント
代表理事 嵯峨 生馬



サービスグラントが提案する 新・社会参加プラットフォーム「GRANT」

個人や仲間と参加できる、約2か月間のプロジェクト情報が掲載されています。プロジェクトへのエントリーは、随時受け付けています。また、団体のみなさまから、プロジェクトの募集に関する問い合わせも歓迎です。

<https://grant.community/>

2018年度の1年間で

160件のプロボノプロジェクトを運営

P6 多様なプラットフォームへの挑戦



昨年度から+955名増の

累計**4,814**名のプロボノワーカ―が登録

P8 幅広い世代・職種がプロボノ層へ



人材育成 × プロボノの新プログラム

累計**22**社**133**名の企業人が参加

P9 プロボノが拓く新たな越境学習のかたち



企業・行政と

131件の協働プロジェクトを実施

P10 広がるパートナーシップ



協働事業における年度総括イベント来場者総数

1,400人を突破

P12 広がるパートナーシップ（行政）



新聞・テレビ・雑誌など

24件のメディアに掲載

P16 メディア掲載一覧



1 | 多様なプラットフォームへの挑戦

プロジェクト
実施件数

160件

長期
67件

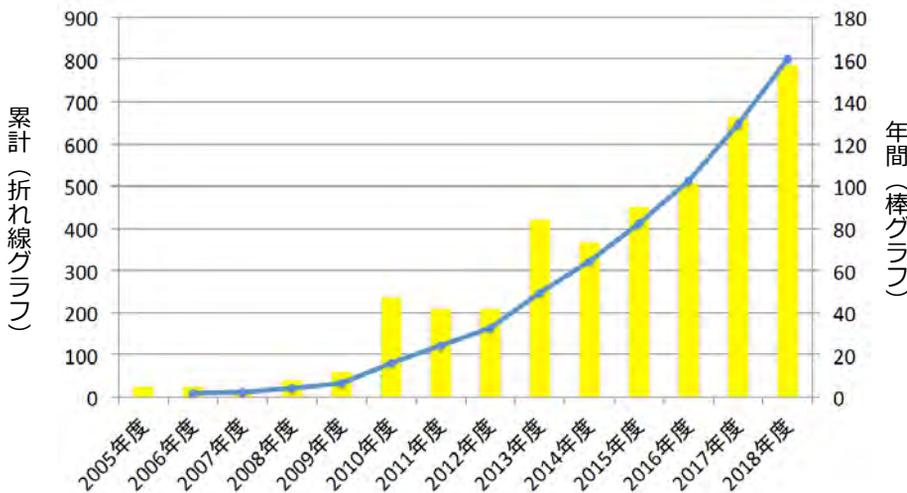
短期
93件

昨年度比+27件の160件を実施、広がる関わり方の選択肢。

2018年度は、長期・短期プログラムを織り交ぜながら、160件のプロジェクト（昨年度 +27件）を実施しました。

特に近年は、NPO法人に加えて、地域活動団体、町会・自治会など、地域づくりに取り組む組織に向けた支援実績が増えています。

サービスグラントでは、より多くの団体のニーズに応えるために、好事例の水平展開を目的に、講座と組み合わせた伴走支援のプログラム開発など、より多くの団体の課題解決と、より多くのプロボノワーカーの選択肢を広げる挑戦を続けています。



神奈川県で開催した「プロボノチャレンジKANAGAWA2018」の成果報告会の様子。



青森県で初開催となった「プロボノチャレンジ」。プロジェクト完了後、支援先の皆さんと一緒に記念撮影。

長期プログラムで67団体を支援

長期プログラムとは、プロボノワーカー5～6名によるチームを編成し、1名につき週5時間を目安に、3～6カ月間にわたって支援先の基盤強化につながる成果物を提供するプログラムです。支援先に対して、ウェブサイト、印刷物、事業計画立案などの成果物を提供しており、サービスグラントが活動開始以来続けてきたサービスグラント定番のプログラムです。

今年度は67件のNPO法人・地域団体・社会起業家等に対して、長期プログラムによるサポートを提供しました。

短期プログラムで93団体を支援

まずは一度プロボノによる支援の仕組みを理解したい、体験してみたいというNPO・地域団体やプロボノワーカーを対象に、期間や作業ボリュームをコンパクトに設定した短期プログラムの開発に取り組んでいます。約2カ月の期間に複数の団体を一斉に支援する「プロボノチャレンジ（58件）」や1日で納品を目指す「プロボノ1 DAYチャレンジ（24件）」に加え、「1 WEEKトライアル（11件）」なども試行し、団体の課題解決に寄与しながら、参加者の裾野を広げる可能性に挑戦しました。今年度は、短期プログラムで合計93件の団体に対してサポートを実施しました。

プロボノ 1 DAYチャレンジ

本番 1 日で取り組むコンパクトなプロボノ体験企画として、サービスグラントのプログラムの中でも好評を得ている「プロボノ 1 DAYチャレンジ」。2018年度は10月21日に東京、11月17日に大阪、11月25日に四日市市で実施し、合計約120名のプロボノワーカーが22団体を支援しました。参加者は、4～6人のチームに分かれ事前オリエンテーションから本番当日までの約1カ月の間に、情報収集や支援先の活動現場の見学などをしながら準備を進めます。本番当日は各支援先団体の活動拠点を訪問し、チラシ作成、Facebookページの立ち上げ、団体の活動に関する課題整理など、各団体の課題解決に役立つ成果物を全チームが完成させました。すべての支援先が「満足した」と回答し、また、プロボノワーカーからも「団体の熱い思いに心動かされた」「得難い経験ができた」という声が数多く聞かれました。



本番当日夜、全チームが集集合しての成果報告会を実施。

ママボノ

育児休業中の女性や、出産等を機に退職した女性によるプロボノとして2013年度にスタートしたママボノ。過去2年は助成金を得ての開催でしたが、2018年度は初めてクラウドファンディングにより東京10チーム、大阪4チームでの大規模開催を継続しました。4月から5月に実施したクラウドファンディングでは、目標50万円のところ、53人の方から合計559,555円の寄付をいただきました。ママボノを応援して下さる皆さまに心より感謝申し上げます。

2018年度は、初の青森県でのママボノも開催しました。また“Mamabono”に関心を寄せたスペインのNPO団体から、実施に向けたご相談をいただきました。東京・大阪エリアからはじまり、青森、そして海外へと広がる兆しもあり、さらなる発展に向かって一歩を踏み出した年でした。

ママボノは、女性活躍推進という社会の流れの中で壁と思われがちな育児休業などの期間を、仕事のブランクではなく、復職後のスキルアップへとつなげる機会として活用してもらうことが一つの大きな開催理由です。子どもを持つことで多忙になる中でも、ママボノに参加しイキイキと復職できるということを、これまで数多くの参加者が示しています。参加者アンケートでは、復職後に「仕事で新しい取り組みにチャレンジしたい」と回答した人が92%にも上りました。また「メンバーの向上心に刺激を受けたので残りの育児休業期間で資格取得等を行おうと考えている」「子育てを理由に挑戦したい気持ちを抑えていたが、諦めなくてもいいと感じた」などのコメントもいただきました。これまでの6年間、すべての支援先から「支援を受けてよかった」というアンケート回答をいただいています。女性にとっても支援先にとってもWIN-WINなプロジェクトと言えます。



東京のオリエンテーション（参加者顔合わせ）に、ママボノメンバー大集合。



大阪の成果報告会にて、ママボノメンバーの皆さん、支援先の皆さんと。



青森初のママボノは、5名チームでウェブサイト完成させました。

新プログラム

個別の団体の課題解決を支援する従来のプロボノプログラムに加えて、さらなる社会的インパクトの創出に向けた新プログラムをスタートさせました。

地域づくりで成果を収めている活動に密着し、現場の様子を掘り下げ、そのポイントを詳細に描き出す「地域づくりの台本」の作成に、プロボノチームが挑戦しました。東京都内の高齢化に向けた地域づくり活動を応援する「東京ホームタウンプロジェクト」の一環として、「多世代交流の居場所」を運営する都内3つの団体にフォーカスしました。

プロボノプロジェクトの先事例を参考に、支援先団体が主体的に学びながら成果物構築に取り組み、プロボノワーカーが側面的に支援する「伴走支援」もスタートしました。東京都内の町会・自治会を支援する「地域の課題解決プロボノプロジェクト」において、ホームページの立ち上げやFacebookの活用を目指す町会・自治会9団体を対象に、前年度に支援した町会・自治会の成果物を参考にしながら、講座と、プロボノワーカーによる伴走による支援に取り組みました。

⇒ [14ページをあわせてご覧ください](#)

2 | 幅広い世代・職種がプロボノ層へ



一段と高まったプロボノへの関心

サービスグラントにスキル登録をいただいたプロボノワーカーは、2018年度新たに955名を数え、累計登録者数も4,814名に上りました。サービスグラントでは、今後も、ご登録いただいた皆さまにできるだけ多くプロボノへの参加機会を創出できるよう挑戦していきます。

ご登録いただいているプロボノワーカーの内訳について次のような傾向が見られます。

(1) 社会人年数別

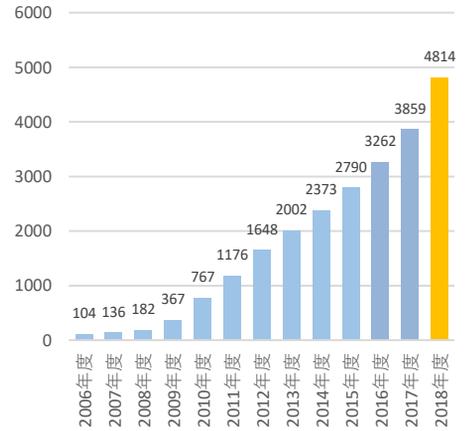
本年度プロボノワーカーとしてスキル登録した人の中で最も多かったのは入社11～15年程度の世代で、全体の4分の1となりました。その他の世代についても満遍なく登録いただいています。定年を控えた世代の登録が増える傾向にあり、プロボノのすそ野が着実に広がりを見せています。

(2) 男女別

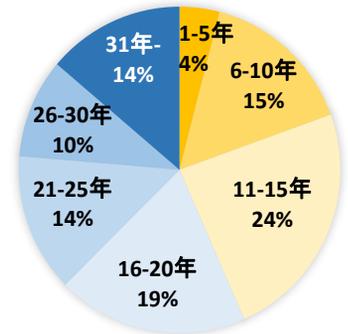
男女比については、登録者数の全体の56%が男性です。本年度新たにプロボノワーカーとしてスキル登録した人は3分の2が男性でした。

(3) 職種

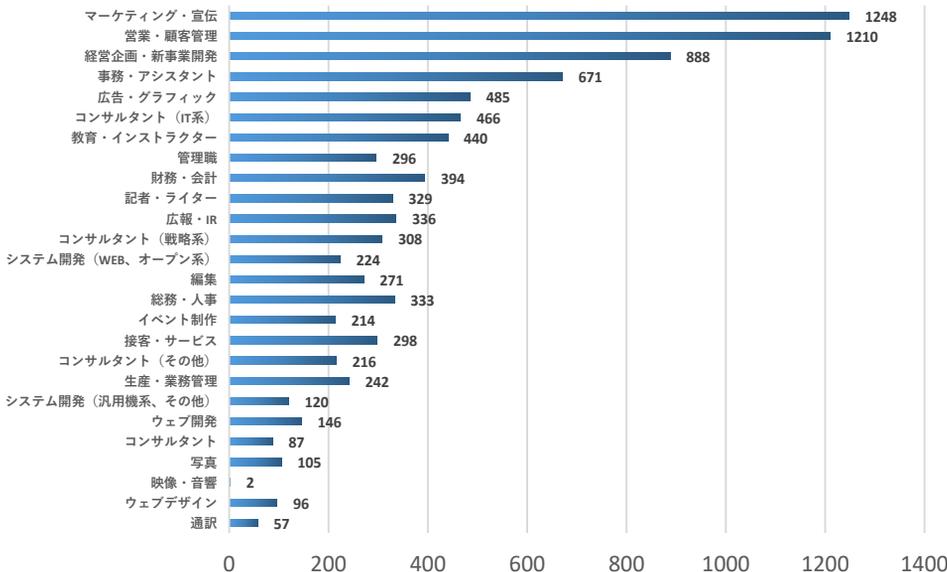
マーケティング関連、営業職に続き、2018年度は経営企画、事務・アシスタント、総務・人事などに携わるプロボノワーカーの登録が目立ちました。その他にも、各種コンサルタント、デザイナーやコピーライターなどのクリエイターに至るまで、幅広い職種の皆さまから多数のご登録をいただいています。



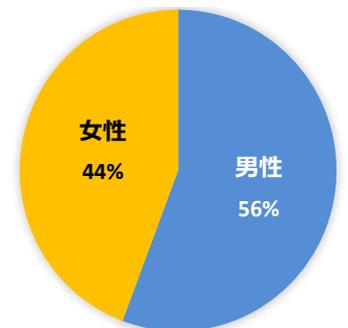
(図1) スキル登録者数の推移



(図2) 社会人年数別登録者の比率



【参考】職種別登録数 (2018年度) ※複数回答あり



(図3) 男女別登録者の比率

3 | プロボノが拓く新たな越境学習のかたち

サービスグラントでは、2016年度より、人材育成を目的とした企業向けプログラム「プロボノリーグ」(旧「プロボノ価値共創プログラム」)を運営し、これまでに22社133名の方にご参加いただいています。

プロボノリーグ

複数の企業から主に中堅社員(30代)が参加し、異業種企業チームを組み、NPO等の団体の課題解決に挑みます。社会感度の向上、コラボレーション力、イノベーションマインドにつながるような学びや気づきを得ることを目的とした人材育成プログラムです。

通常のプロボノプログラムと異なる点は、以下の2点です。

1. 事前に成果物を決めず、チームで団体の課題をヒアリングし、課題把握から解決策を検討し、明日から活用できる成果物を制作すること。
2. 1団体に対して複数チームが担当し、チームが互いに競い合い、切磋琢磨すること。

2018年度は、これまでの中堅向けプログラム、シニア向けプログラム(下記、ライフシフトプログラム参照)に加え、対象者を絞らず、異なる階層でのチームマネジメントを目的とした全階層向けプログラムの実施や、東京開催に加え、大阪でも初めて開催する等、新しい試みにも挑みました。支援先4団体に対し、全8チームが団体の課題解決につながる成果物を提供しました。



チームで支援先の課題を明確化を行い、成果物を決定します。



プログラムでは、実際に現場体験や関係者へのヒアリングも行います。

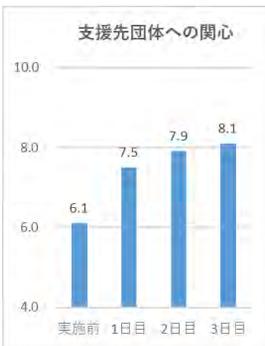
ライフシフトプログラム(シニア向けプログラム)

～人生100年時代に向けて、会社中心から、地域や社会とつながる～

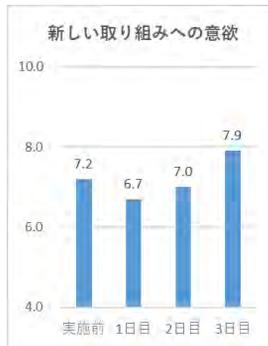
2018年度は東京ホームタウンプロジェクトの枠組みで、ライフシフトプログラム(シニア向け体験型プロボノプログラム)を実施しました。東京都内在住・在勤の40代以上の方、また東京都内の生活支援コーディネーターなど、計11名にご参加いただき、プロボノを活用した団体の課題解決に挑むとともに、自身のキャリアの棚卸しを行いました。

参加者の変化

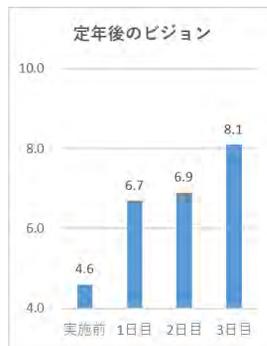
プログラム参加者による開始前から最終日までの自己評価によると、「社会課題への関心」「新しい取り組みへの意欲」「定年後のビジョン」などの各項目で顕著な変化が見られます。



中堅向けアンケートより



中堅向けアンケートより



シニア向けアンケートより



最終日は支援先に成果提案を行います。また、チームで活動を振り返り、気づきや学びを仕事に持ち帰ります。

4 | 広がるパートナーシップ

協働
プロジェクト
131件

企業 23件
行政 108件

【1】企業との協働

サービスグラントでは、企業のCSR・社会貢献の方向性や、社員の皆さまの経験・スキル、支援先NPOのニーズ等を踏まえて、企業の特性が活かされるプロボノプログラムの運営サポートを行っています。



※掲載順は、協働開始時期の順です。敬称は略させていただきます。

日本電気株式会社

静岡県掛川市、伝統工芸品の継承を目指す取り組みを支援

社会起業家や地方創生の取り組みをNEC社員のプロボノ活動で支援する「NECプロボノイニシアティブ」の第9期として、東京と大阪を中心に各地で行われた計7件（8種類）のプログラムに20名が参加しました。NEC社員5名で構成した長期のプロジェクトでは、静岡県掛川市で伝統工芸品「葛布」の次世代継承を目指す「掛川市葛布利活用委員会」を支援。担い手の獲得を目標としたマーケティング基礎調査の他、利活用拡大に向けて地域でアクションを起こす人材増を目標に2回のワークショップを実施し、葛布のステークホルダー、住民、市職員など計150名以上が参加しました。活性化のための14のプロジェクトが生み出され、継続的な取り組みが進行しています。



パナソニック株式会社

全国各地の社会課題の現場に一步踏み込むプロジェクトを東阪で展開

2018年度は、中長期プロジェクト5チーム、プロボノ1DAYチャレンジ1チームに計32名が参加しました。今年度は支援先が全国各地に広がり、食を通じて東北6県の一次産業の生産者と消費者をつなぐ取り組みの新事業戦略の検討、子どもの学びを支える学習支援の寄付増加を目的としたツール制作、リユース食器を軸としたコミュニティビジネスの事業計画立案、環境と共存するこだわりのお米の販路を増やすためのマーケティング調査など、団体が向き合う多様な社会課題について理解を深めながら、運営上の課題解決を支援しました。



SMBCグループ

支援先団体の特徴や活動を可視化し、継続的な利用を想定した成果物を提供

三井住友フィナンシャルグループ（SMBCグループ）は、三井住友銀行を含むSMBCグループ各社の従業員による横断型のプログラムを2014年度より展開しています。本年度は5社10名が参加し、創作ミュージカルで子どもの主体性や社会性を育む非営利型一般社団法人「リトル・ミュージカル」と、インド・インドネシアの農村で暮らす人々の生活の質の向上を目指す国際協力NGO「地球の友と歩む会（LIFE）」を支援しました。「活動成果の可視化ツール」や「類似団体と比較したポジショニングマップ」など、支援先団体が継続的に利用することを想定した成果物を納品しました。



日立グループ

参加しやすい短期間でのプロボノ支援により、本業を生かした社会課題解決をめざす

日立グループでは、日立グループ・ビジョンの実現こそCSRと位置づけ、本業を生かした社会課題の解決をめざしています。その一環として、短期間でのプロボノプロジェクトを2016年度からスタートしました。

3年目となる本年度は、難病の子どもたちの支援や自殺防止などの領域で活動する5つの団体に対して、課題整理、パンフレット制作、営業資料制作などさまざまな支援を実施。全支援先団体・全参加者から「参加してよかった」という声がありました。



三菱商事

復興の現場で課題に直面、社会への関心に大きな変化

「三菱商事プロボノプロジェクト」とは、三菱商事復興支援財団の支援先で東北の復興に取り組む事業者を応援する短期集中型プロボノプログラムです。

本プログラムでは、1泊2日で現地東北に赴き、地域復興に取り組む2つの会社に対して事業計画の立案やマーケットリサーチなどの提案などを行いました。参加したプロボノワーカーは復興の現場で頑張っている事業者の課題を目の当たりにし、より本質的な関わり方でプロボノワークに没頭。参加者それぞれの社会への関心に大きな変化が表れ、熱気にあふれる2日間を過ごしました。



リクルートマネジメントソリューションズ

日常では接することのない活動に踏み込み支援することが、何事にも代え難い社会経験に

プロフェッショナルである社員によるプロボノ活動を「プロ活」と称し2017年度にスタート、今年2年目となる活動を実施しました。プロ活では主に、子ども、教育支援などのテーマのNPOを支援しています。

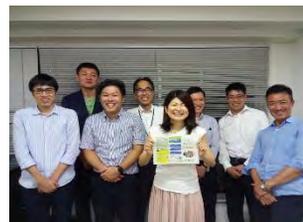
2018年度は、子育て支援、虐待防止、里親支援を行うNPO法人バディチームを支援先とし、マーケティング基礎調査プロジェクトを実施、「子育てパートナー」の満足度を上げるための具体的な施策を提案しました。丁寧なヒアリングを通じた成果物に対し支援先の満足度は非常に高く、参加社員からもプロジェクト参加経験を通して視野が広がったと熱い報告があり、最終報告会では涙する参加者の姿も見られました。



塩野義製薬株式会社

参加者の88%がプロボノの経験後、仕事で新しい取り組みにチャレンジしたいと思ったと回答

塩野義製薬では、新薬の研究・開発・販売だけでなく、発達障がいの社会的な理解促進に社員が貢献する新たな方法として、プロボノプロジェクトをスタート。初年度は多様な子どもたちに自然体験の機会を提供する「のあつく自然学校」の新規参加者向け広報文の改訂、あらゆる子どもの学びと育ちを支えるフリースクール「スマイルファクトリー」の団体紹介ツールの作成に取り組みました。参加した従業員からは「自分と社会をつなぐどこでもドア」「社会における自分の価値に気づくことができる取り組み」などの回答があり、プロボノが社会と自分の関係性を見直すことにつながった他、仕事での新たなチャレンジに意欲が高まる傾向が明らかになりました。



【2】行政との協働

東京都「東京ホームタウンプロジェクト」

4年間の支援先団体数合計が100を超え、総括イベントもこれまで以上の盛り上がり

「いくつになっても、いきいきと暮らせるまちをつくる」を合言葉に、住み慣れた地域で、人生の最期まで自分らしい暮らしを続けることができる「地域包括ケアシステム」の実現を目指し、東京都とサービスグラントが協働で進めているプロジェクトです。本年度は27の地域団体・NPOにプロボノ支援を提供し、4年間の支援先団体は101に到達しました。また、年度総括イベント「東京ホームタウン大学2019」では津田塾大学・千駄ヶ谷キャンパスを舞台に、1限目から3限目まで多彩なプログラムを実施。ゲストの飯島勝矢氏、さらに20以上の地域団体・活動者が登壇し、「東京の宿題2025」をテーマに400名以上の参加者との活発な交流、意見交換が行われました。



大阪府「大阪ええまちプロジェクト」

大阪府内の生活支援コーディネーター、中間支援組織とも連携し、20団体を支援

団塊世代が後期高齢者となる「2025年問題」を見据え、若手からシニアまでオール大阪で住民主体の支え合いによる地域包括ケアシステムの構築を目指すとするプロジェクトです。大阪府とサービスグラントが協働し、2017年度から始まりました。開始2年目の本年度は、20の地域団体・NPOに対して、計90名のプロボノワーカーが支援を実施。そのうち14の団体に対しては、生活支援コーディネーターや、吹田市、堺市の中間支援組織とも連携し、基盤強化に取り組みました。2019年2月26日には総括イベント「大阪ええまちプロジェクト大交流会」を開催。村田幸子氏による基調講演やテーマ別分科会を実施し、200名を超える方にご参加いただきました。



東京都「地域の課題解決プロボノプロジェクト」

東京都内の町会・自治会を支援するまちづくりプロジェクト

「個別支援コース」では、都内の10の町会・自治会を支援し、業務棚卸しと運営改善提案、アンケート調査、団体紹介パンフレットの作成などの具体的な成果物を提供しました。また、「伴走支援コース」（情報発信講座）では、9つの町会・自治会のFacebookやホームページの作成をプロボノワーカーが伴走してサポートを行いました。総括イベントには150名を超える方に参加いただき、町会・自治会の生の声に触れる機会を持ちました。

神戸市「神戸ソーシャルブリッジ」

社会貢献に関心のある多様な層に向けて、コンパクトな関わり方の機会を提供

まちづくりに力を発揮する神戸市内のNPO・地域活動団体と、企業社員、行政職員、シニア、学生など社会貢献活動を希望する多様な人材をつなぎ、地域社会の課題解決に協働して取り組むプロジェクトです。1週間と2カ月の期間の異なるプロジェクトを実施し、全11団体、延べ79名が参加。行政職員の参加が約2割と他都市と比較して高いことが特徴です。総括イベントは一般100名、登壇関係者30名など計150名の参加となりました。

神奈川県「プロボノチャレンジKANAGAWA」

神奈川県内にプロボノの文化を根付かせるためのチャレンジ

神奈川県立かながわ県民活動サポートセンターとの協働事業です。今年度は、県内のNPO・地域団体等の基盤強化を目的として、58名のプロボノワーカーが参加し、12団体を支援しました。あわせて、神奈川県内で活動する中間支援組織に向けて、プロボノ・コーディネートの実務的なノウハウを伝える「プロボノアカデミー」を開催し、6団体が参加しました。今後は、アカデミーに参加した中間支援組織等と連携しながら、県内においてプロボノが定着するような取り組みを推進していきます。

東京都「障害者スポーツ団体基盤強化事業」

団体・チームが100%満足。「プロボノは、人が好きであれば何かを成し遂げることができる場」

東京都内で活動する4つの障害者スポーツ団体に対して、多様な専門性を持つ26名のプロボノワーカーがプロジェクトに参加しました。各団体に実用的な成果物を提供し、全団体が「プロボノ支援を受けてとても良かった」、全プロボノワーカーが「参加経験に良い印象を持っている」とアンケートで回答しました。為末大さんをゲストに招いた総括イベントには142名が参加し、障害者スポーツとプロボノ支援について関心を高めることができました。

千葉県「我がまちシニア応援プロジェクト」

退職後の人生に思いをはせ、NPO・地域団体の活動基盤を強化する

千葉県内で活動する高齢者福祉団体の活動基盤を強化し、地域包括ケアシステムの構築を目指すプロジェクト。2018年度は千葉県の4団体を支援しました。同時に、次世代シニアの方に参加を促し、地域活動においての役割と活動のきっかけを提供することで、参加者の生きがいづくりにもつながるプログラムを目指しました。17人が参加し、ビジネススキルや専門知識を地域活動に還元すると共に、地域活動への関心を高めることができました。

千葉県松戸市「プロボノチャレンジMATSUDO2018」

地元を応援しながら、地元で活躍、地域への定着を見せた2年目

地域活動と健康寿命との関連性を証明する研究プロジェクトとしてスタートし、2年目となる今年、約2カ月のプロボノプロジェクトで5団体を応援しました。参加者18名のうち、昨年からのリピート参加が3名、市内参加者が7割と、地元密着プロジェクトとして定着してきています。昨年度も実施した印刷物、調査プロジェクトに加え、SNS活用やウェブサイト作成など、支援内容にも広がりを持つことができました。

三重県四日市市「プロボノ1DAYチャレンジ in YOKKAICHI」

誰かの役に立っていると実感し、地域全体に新たな輪が広がった1日

今年度は企業社員や自治体職員、フリーランスの方も参加いただき、26名のプロボノワーカーで4団体を応援しました。また昨年度オブザーバー参加した高校生については、新たに1校が参加し、合計2校の高校生13人が参加しました。「自分の経験が団体の役に立ったのでうれしい」「人と人のつながりの輪が広がった」という声も多く聞かれ、「若い人の積極的な意見に助けられた」とお互いに協力し合える1日となりました。

大和高田市「プロボノチャレンジ 大和高田 2018」

社会と関わることで、新しい自分を発見！

大和高田市では初の実施となるプロボノプロジェクトにチャレンジしました。地域で活動している「まち部。」の中にある2つのプロジェクトをプロボノ短期プログラムで支援し、6名のプロボノワーカーが参加しました。今回の事業実施を通じ、ビジネススキルや専門知識を社会に還元するプロボノプログラムについて市内で認知され、プロボノの取り組みそのものに対する理解が深まりました。

青森県「青森プロボノチャレンジ」

本州最北端から吹く「プロボノ旋風」。青森県民が県内NPOをプロボノ支援

青森県では、県民の誰もが地域で育ち、地域を助け、地域で安心して暮らしていくことができる「青森県型地域共生社会」に向けて、NPO・地縁組織・企業などの多様な主体の連携・協働を進めています。青森県初となる「プロボノチャレンジ」は青森市を中心に、県内NPOや地域団体の活動運営におけるステップアップに向けて、5つの青森県民プロボノチームが支援を行いました。また、「NPO法人子育て応援隊ココネットあおもり」が参加メンバーを呼びかけ「ママボノチーム」を編成、プロジェクト進捗管理をサービスグラントと共に実施しました。

5 | 個別課題の解決から社会的インパクトへ

プロボノプロジェクトは、社会課題解決に取り組む団体を支援する形を基本としてきましたが、プロボノによる支援の成果をさらに拡大するための取り組みとして、個別の団体に対する支援以外のプロジェクト手法の開発に取り組んでいます。

ここでは、サービスグラントが取り組む、より大きな社会的インパクト創出に向けた試みをご紹介します。

伴走支援

先行事例を参考に、支援先団体が主体的に成果物構築に取り組む新モデル

プロボノプロジェクトによって生み出された成果物の中には、他地域・他団体に応用できる普遍性を持ったものがあります。東京都内の町会・自治会を支援する「地域の課題解決プロボノプロジェクト」では、2018年度の新たな取り組みとして、前年度の先行事例を参考としながら、支援先の町会・自治会が主体的に成果物構築に取り組み、プロボノワーカーが側面的にサポートする「伴走支援」型のプログラムがスタートしました。初年度はウェブサイトの構築およびFacebook活用をテーマに9団体を同時に支援しました。



伴走支援における支援先団体とプロボノワーカーのミーティングの様子。

地域づくりの台本

活動のエッセンスとディテールを描いた虎の巻

成果を挙げている活動を支える行動原理と、そこから導き出される具体的な日々の運営における注意点や細かな気遣いを描き出すことで、他地域で活動する団体が、日々の活動の中で抱える課題を乗り越えるヒントとなることを目指してつくられたのが『地域づくりの台本』です。

東京都内で多様な主体の参画による地域包括ケアの推進を目指す「東京ホームタウンプロジェクト」の新たな取り組みとして、東京都内で個性的な活動を行う団体を取材し、活動の根底にある考え方や印象的なエピソードなどから他地域においても役立てられそうなヒントを描き出すことにプロボノワーカーが挑戦しました。2018年度の『地域づくりの台本』は、多世代交流の居場所づくりの取り組みにフォーカス。成果物はウェブサイト上で公開しています。



活動現場に足を運び、入念な調査・取材をもとにプログラムを作成しました。

プロボノアカデミー

中間支援組織を対象としたプロボノコーディネート講座

サービスグラントでは、「DoからEnableへ」をスローガンとし、サービスグラント以外の組織がプロボノプロジェクトを運営できるようになり、社会全体にプロボノの取り組みが広がっていくことを目指しています。

その一環として、中間支援組織を対象にプロボノのコーディネートに関する考え方や具体的な方法を伝える「プロボノアカデミー」を開催しています。

2018年度は、神奈川県立かながわ県民活動サポートセンターとの協働による「ボランティア団体成長支援事業」の一環として、県内各地に拠点を置く中間支援組織7団体が参加して「プロボノアカデミー」を3回シリーズで開催しました。そして、2019年度は、プロボノアカデミーに参加した中間支援組織との協働により、神奈川県におけるプロボノプロジェクトの運営に挑戦していきます。



PROBONO ACADEMY

6 | 国際的ネットワークと情報発信

グローバル・プロボノサミット 2019

2019年5月7日～9日

2013年の第1回以来、7回目の開催となる「グローバル・プロボノサミット」が、米国ニューヨークで開催されました。実は、2013年に第1回が開催された場所がニューヨークで、7年かけて世界を一周してこの地に戻ってきた形になりました。第1回の際はわずか15名ほどだった規模感から、今回も100名を超える参加者が世界各地から集まり、活発な情報交換やディスカッションを繰り広げられました。

サミットでは、EUの域内で活動するプロボノ団体が、EU政府と連携し、若者の雇用能力を高めるためのプロボノプログラムをスタートさせたことや、南米のプロボノ団体が集って南米エリアでプロボノをテーマとするサミットを開催していることなど、各地で取り組みが広がっていることが報告されました。

サービスグラントからは、日本発のプロボノモデルである「ママボノ」の取り組みとその広がりについてプレゼンテーションを行いました。あわせて、グローバルでのママボノの実践を呼びかけた結果、サミット後から、スペインやメキシコの団体との間で定期的な情報交換の機会が生まれました。さらに、スペインでは、助成金の取得に成功し、ママボノの取り組みが動き始めています。



スペインのWork for Social によるママボノのサイト
<http://mamabono.es>



フランスのPro Bono Labから、EU域内における団体が連携したプロジェクト「BEESE」について紹介がありました。



サミットには、プロボノの中間支援団体をはじめ、企業、NPO・NGOなど100名を超える来場者が集まりました。

国際的プロボノキャンペーン「プロボノウィーク」に参加

プロボノウィークとは、世界各地でプロボノに関するイベントやセミナー等を集中開催し、プロボノに対する社会的関心を高めるグローバル・キャンペーンです。

2018年10月21日～27日の期間中およびその前後に、日本では「プロボノ1 DAYチャレンジ」や「ママボノ」のプロジェクト、「青森プロボノチャレンジ」など、各種イベントを集中開催しました。また、日本から世界に向けて、アクティブなプロボノプロジェクトの様子をSNSを通じてリアルタイムで発信しました。



メディア掲載一覧

新聞	<ul style="list-style-type: none"> ◆毎日新聞 2018年5月5日, 6月3日 ◆朝日新聞(地方版) 2018年6月15日 ◆朝日新聞 2018年6月22日 ◆神奈川新聞 2018年7月1日 ◆日本経済新聞 2018年7月21日, 8月6日 ◆朝日新聞(夕刊) 2018年8月24日 ◆東奥日報 2018年10月30日 ◆毎日新聞(大阪) 2018年10月5日, 11月5日, 2019年2月10日 ◆神戸新聞 2019年2月11日 ◆東京新聞 2019年3月27日
ラジオ	<ul style="list-style-type: none"> ◆渋谷のラジオ 渋谷のプロボノ部 毎週火曜
雑誌・専門誌	<ul style="list-style-type: none"> ◆織研新聞 2018年5月22日 ◆Oggi 2018年8月号 ◆ツ・ナ・ガ・ル(一般社団法人チーム医療フォーラム季刊誌) 2018年8月15日号
テレビ	<ul style="list-style-type: none"> ◆TBS 報道特集 2018年5月5日放送 ◆テレビ熊本 TKUプライムニュース 2018年5月22日放送 ◆NHK ニュースウォッチ9 2019年1月9日放送
地域情報誌	<ul style="list-style-type: none"> ◆シティリビング横浜版 2018年9月28日号 ◆社会福祉法人いたるセンター「いたる通信」2019年1月1日号
ウェブ	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本生命福利厚生レポート 2019年1月 ◆東京動画(動画で解説する都政) 2019年3月28日

▼毎日新聞 2018年5月5日
高齢者支援 プロボノ活用
住民団体との協働 府が推進



▼東奥日報 2018年10月30日
育児中も社会貢献
県内初「ママボノ」活動



講演実績

講演	<ul style="list-style-type: none"> ◆青森県プロボノセミナー 2018年 6月14日 ◆福井とつながるセミナー 2018年 6月23日 ◆近畿経済産業局「関西企業フロントライン」2018年 9月27日 ◆松戸市 生涯学習フォーラム 2018年 11月 7日 ◆津田塾大学 2018年 12月17日 ◆関西経済同友会 2019年 1月9日 ◆名古屋市「プロボノが拓く地域コミュニティの新時代」 2019年 1月27日 ◆市町村アカデミー 2019年 1月31日 ◆ふるさと帰帰支援センター 2019年 2月19日, ◆東京都健康長寿医療センター研究所 2019年 3月15日
----	---

▼Oggi 2018年8月号
Oggi大学



7 | 会計報告

2017年度(2017年10月1日～2018年9月30日)の活動計算書は以下の通りです。

科	目金		額
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	82,000	82,000	
2 受取寄付金			
受取寄付金	1,919,599	1,919,599	
3 受取助成金等			
受取助成金	3,689,864		
受取補助金	9,265,000	12,954,864	
4 事業収益			
サービス・助の提供を通じたNPO支援事業	2,609,774		
企業・行政等との連携による「あ・な・か」の運営事業	122,865,828		
「あ・な・か」の運営を担う人材育成事業	0		
「あ・な・か」の普及・広報・社会的制度化に関する事業	916,729		
その他目的を達成するために必要な事業	0	126,392,331	
5 その他収益			
受取利息	295	295	
経常収益計			141,349,089
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
給料手当	45,724,997		
人件費計	45,724,997		
(2)その他経費			
外注費	32,140,999		
会議費	5,562,534		
交際費	403,034		
旅費交通費	7,665,395		
通信運搬費	884,597		
消耗品費	1,442,883		
新聞図書費	26,563		
印刷製本費	1,575,387		
租税公課	20,000		
支払手数料	1,279,953		
研修費	128,740		
水道光熱費	21,726		
地代家賃	858,508		
修繕費	185,000		
保険料	855		
賃借料	20,088		
減価償却費	545,832		
その他経費計	52,762,094		
事業費計		98,487,091	
2 管理費			
(1)人件費			
給料手当	5,094,000		
法定福利費	5,958,865		
福利厚生費	323,652		
人件費計	11,376,517		
(2)その他経費			
外注費	86,400		
会議費	82,874		
通信運搬費	124,239		
消耗品費	1,368,898		
水道光熱費	212,339		
支払手数料	950,288		
地代家賃	4,686,655		
賃借料	215,850		
保険料	5,975		
租税公課	5,473,500		
支払報酬料	1,031,400		
減価償却費	516,904		
その他経費計	14,755,322		
管理費計		26,131,839	
経常費用計			124,618,930
税引前当期正味財産増減額			16,730,159
法人税、住民税及び事業税			4,086,000
当期正味財産増減額			12,644,159
前期繰越正味財産額			9,624,811
次期繰越正味財産額			22,268,970
収支差額			

今年度の支援先一覧

【東京事務局】

(青森県・宮城県・岩手県・福島県・東京都・千葉県・神奈川県・静岡県)

一般社団法人 EarthCompany
NPO法人 Art for Children's SHINE
NPO法人 あおもりラジオくらぶ
認定NPO法人 あっちこっち
NPO法人 アフタースクール
一般社団法人 あんしん地域見守りネット
池袋本町中央町会
社会福祉法人 いたるセンター地域ケアセンターサポートウイズ
いちかポケットの会
NPO法人 居場所コム
NPO法人 居場所サポートクラブ ロベ
認定NPO法人 WE21ジャパン
歌声広場よりみち
NPO法人 エーエルサインラボ
認定NPO法人 エンパワメントかながわ
NPO法人 親子はねやすめ
認定NPO法人 開発教育協会
加賀五四自治会
学習サポート・スコラ
掛川市葛布利活用委員会
NPO法人 かたつむり
かみすな福祉相談センター
上引田町内会
紀尾井町町会
一般社団法人 輝水会
グリーンサイト東青梅自治会
グリーンハイツ「ゆいの広場」
くるみの会
クロダマハウス
けめカフェ
公社西台住宅自治会
社会福祉法人 こうれいきょう
小金井市けやき通り商店会
NPO法人 国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター
NPO法人 子育てオーダーメイド・サポートこども
社会福祉法人 子どもの虐待防止センター
NPO法人 コミュニティーあおもり
コミュニティホーム べてぶくる
サーカス
柴町町会
相模人形芝居 下中座
狭山自治会
CFS (慢性疲労症候群) 支援ネットワーク
NPO法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク(SPAN)
シニアいきいきサロン
NPO法人 シニア大衆
若年性認知症家族会・彩星の会
NPO法人 消費者スマイル基金
NPO法人 女性ネットSaya-Saya
人生ココから見本市実行委員会
NPO法人 スペースふう
NPO法人 スマイリングホスピタルジャパン
千川地域福祉活動推進協議会 (千川地域社協)
一般社団法人 全国フードバンク推進協議会
株式会社 仙台秋保醸造所
株式会社 相馬の里
NPO法人 ダイアモンド・フォー・ピース
鷹番1・2丁目町会
NPO法人ターサ・エデュケーション
たすけあいサポートアイアイ
館ヶ丘自治会
NPO法人 地域の寄り合い所 また明日
認定NPO法人 地球市民ACTかながわ
NPO法人 地球の友と歩む会 (LIFE)
ちょこっと支え合い
つどいの会
つばめの会
NPO法人 ツル多はげます会
東京都IDボウリング連盟
東京都グラウンドソフトボール連盟
東京都ゴールボール連絡協議会
東京都障害者水泳連盟
公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会
大元町一丁目自治会
東郷町会
NPO法人 東北開墾
NPO法人 ドリームタウン
認定NPO法人 日本アレルギー友の会

NPO法人 日本失語症協議会
一般社団法人 日本障害者女子ソフトボール協会
NPO法人 日本ハワイアンリトミック協会
のがわの家運営委員会
ハーブガーデンからふみ出そう
ばそこん119
NPO法人 バディチーム
認定NPO法人 びーのびーの
東中野五丁目小滝町会
プラウドシティ梅島自治会
NPO法人 プラチナ美容塾
NPO法人 プレーバークせたがや
地域密着型複合施設 マザアス新宿
町田市町内会・自治会連合会
NPO法人 街のお助け隊コンサルジュ
まつど子ども食堂の会
みたか・みんなの広場
南田園二丁目町会
牟礼中町会
メディカル・ウォーキング倶楽部
茂呂町会
NPO法人 モンキーマジック
薬王寺町町会
一般社団法人 夢らくぎプロジェクト
認定NPO法人 横浜移動サービス協議会
NPO法人 横浜にプレイパークを創ろうネットワーク
公益財団法人 横浜YWCA
NPO法人 リーブ・ウィズ・ドリーム
非営利型一般社団法人 リトル・ミュージカル
NPO法人 リンク東山

【関西事務局】

(大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・三重県・石川県)

NPO法人 アイ・コラボレーション神戸
I FOR YOU Japan
NPO法人 いきいき会
NPO法人 インターナショナル
NPO法人 FMわいわい
大阪市シルバーアドバイザー連絡協議会
認定NPO法人 大阪自然史センター
おしゃべり女子会
おんがく・さ〜くる・コスモス
音楽サロンくつろぎ
カフェたんぼぼ
NPO法人 河北潟湖沼研究所
認定NPO法人 気候ネットワーク
神戸市自治会連絡協議会
神戸市職員有志
NPO法人 ここから100
NPO法人 こどもの里
子ども福祉委員
咲つく南花台生活応援プロジェクト
NPO法人 山麓の会
磯長台の福祉を考えるつどい
NPO法人 しみん基金・KOBÉ
特定非営利活動法人 下野・生き域ネット
NPO法人 吹田市民NPO
健やかスマイル
NPO法人 住まいまもりたい
生活困りごとサポート こ・こ・わ
一般社団法人 青少年・子ども育成支援協会
竹の台地域委員会
NPO法人 多言語センターFACIL
認定NPO法人 地球環境市民会議
NPO法人 トイボックス
NPO法人 のあつく自然学校
波太学習研究会
NPO法人 Peace & Nature
びーのxマルシェ
ふらっと三宝
ほっと吹田
一般社団法人 まちづくりのシニアコミュニティ
NPO法人 まなびと
NPO法人 ママの働き方応援隊
三重言友会
大和高田「まち部。」高田の元気を発信するため、まちなかに音楽を
広げたい！プロジェクト
大和高田「まち部。」Let's スキッ！ヤキッ！プロジェクト
ゆめ伴プロジェクトin門真実行委員会
四日市市ヘルスリーダーの会

事務局所在地

東京事務局（団体本部）

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-2-10
TEL 03-6419-4021
FAX 03-6419-3885

関西事務局

〒541-0047
大阪市中央区淡路町2-5-16
淡路町ビル8F
TEL 06-6484-5810
FAX 06-6484-5820



役員

理事

生駒 芳子
川淵 恵理子
嵯峨 生馬（代表）
中野 宗

監事

石原 英樹

特別顧問

奥山 俊一

フェロー

新井 博子
河田 浩司

スタッフ

東京事務局

小林 智穂子
岡本 祥公子
津田 詩織
宮坂 奈々
櫻尾 直美
角永 圭司郎
北詰 佳子
柴岡 久美子
中川 寛允
細川 美津子
中島 裕子
阿部 孝
杉本 香代子
小泉 英治朗

関西事務局

槇野 吉晃
河井 靖子
鈴木 七重
堀 久仁子
永野 純一郎

賛助会員のご案内

この報告書でも掲載している通り、サービスグラントでは、企業・行政・財団との協働プロジェクトを通じて、プロボノの展開とともに、団体の財政基盤を確保しながら活動を続けています。

しかしながら、財政的な裏付けはなくとも、社会的インパクトの創出を第一義に、社会課題解決に寄与するNPOの支援についても、継続してプロボノプロジェクトの立上げ・運営を行っていきたいと考えています（2018年度は、長期プログラムによる支援67件のうち約24%にあたる16件が自主事業による運営）。

こうした自主事業を支える仕組みが賛助会員です。
サービスグラントによるプロボノを通じて、支援先となるNPO・ソーシャルセクターにインパクトのある支援を提供することに向けて、ぜひ皆さまの応援をお願いします。

賛助会費は、**1口3,000円/年** から。
お支払いは、クレジットカード・銀行振込で受け付けています。

なお、サービスグラントは、寄付者の皆さまが寄付金の税額控除を受けることができる「認定NPO法人」を取得しています。

▼詳しくは、こちらのページをご覧ください。
<https://www.servicegrant.or.jp/aboutus/support.php>

